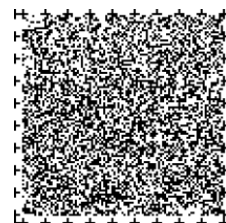


## 心、ぽつかぽか

小 三

わたしは、お父さんの仕事のつごうでA国に住んでいました。A国の学校にはいろいろな国の子が通っていて、国にかんけいなく、みんなで声をかけ合って、おにごっこやなわとびをして遊んでいました。みんな、えい語がとくいではなくても、はずかしがらないで友だちに話しかけていました。えい語が上手に言えなくても、わらわれることはありませんでした。だから、わたしもよく話しかけていました。

一年生の七月に、A国から日本に帰ってきて、B小学校の一年生に、体けん入学することになりました。クラスの友だちは、みんなやさしくて、いろいろ話したり、いつしよにあそんだり、楽しくすごすことができました。その時はとてもうれしかったです。



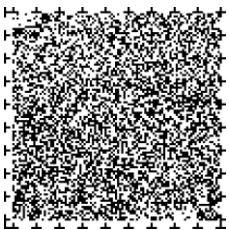
一週間だけでしたが、たくさん友だちができました。ランドセルのおき場所や教科書のしまい方を教えてくれたり、

「いっしょにあそぼう。」

ときそつてくれたり、みんなとても親切でした。

体けん入学の後、A国の学校にもどりましたが、二年生の四月、日本に帰ることになりB小学校へ転校しました。日本の小学校で友だちがたくさんできるといいな、日本のあそびを教えてもらいたいなと楽しみにしていました。でも、はずかしがりやだから話せるかな、体けん入学の時のことをだれかおぼえてくれているかな、と心ぱいでした。A国のべん強とちがつて、できなかつたらどうしようかとドキドキしていました。

二年生のクラスに入ることになり、たんにんの先生が、「わからなくてこまっていることはありませんか。少しずつなれてくるから、大じょうぶだよ。みんなやさしいよ。」  
とえ顔で言葉をかけてくださいました。



B 小学校へ通いはじめて、一週間くらいしたころ、友だちとうまく話せないのが少しつらくなり、学校を休んでしまいました。

次の日のきゅう食の時、牛にゆうパックのひらき方がわからなくてこまっ  
ていました。でも、このままではいけないと思い、ゆう気を出して、

「あけられないんだけど、あけてもらえる。」

と声をかけてみました。友だちは、

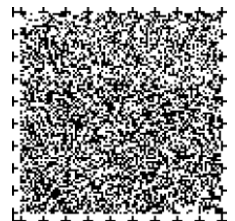
「いいよ。」

とやさしくこたえてくれて、わたしの牛にゆうパックをあけてくれました。

わたしは、その時、とてもうれしかったです。その後も、いろいろな友だちがわたしに、声をかけてくれました。おそうじの時に、どうしていいかわからなくてこまっていたら、

「ぞうきんはたたんで、ここをふくんだよ。」

と教えてくれました。休み時間に、一人でどうしたらいいのか考えていたら、友だちが

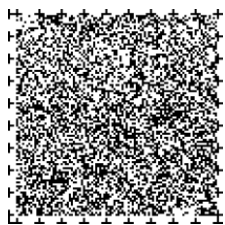


「いっしょにあそぼう。」

ときそつてくれました。これからよい友だちになれそうだな、すごくやさしい子なんだな、と思いました。わたしは、だんだん安心することができました。わたしも、A国の学校で、はずかしがらないでえい語で話しかけていたように、思い切って友だちに、自分から声をかけてみようと思いました。

それからは、日本の学校での生活が楽しくて、ねつが出た時くらいしか休みませんでした。夏のプールの時も、みんなとなかよくあそびました。ほかにも、土曜日や日曜日にも公園へ行ってあそんだりわたしの家に来てあそんだりして、どんだんなかよしになり、心がぽっかぽかになりました。友だちっていいな、大切にしたいな、と思います。もしも、こまっている友だちがいたら、すすんで声をかけようと思います。

わたしは、友だちの「いっしょにやろうね。」とかけてくれる言葉が大好きです。友だちと心がつながっていると楽しくなります。一人でポツンというより、たくさんの友だちといっしょにすごしたほうが、二倍





も三倍もうれしくなります。「すすんで声をかける」ことの大切さがわかりました。もっと、心がぽっかぽかになるように、友だちをたくさんつくって、なかよくしていきたいです。

